

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業
(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告書

ベーチェット病の皮膚粘膜症状のガイドライン作成に関する研究

研究分担者	中村晃一郎	埼玉医科大学 皮膚科
研究協力者	岩田 洋平	藤田医科大学 皮膚科
	浅井 純	京都府立医科大学 皮膚科
	川上 民裕	東北医科薬科大学 皮膚科
	常深祐一郎	埼玉医科大学 皮膚科
	金子 史男	南東北総合病院

研究要旨

ベーチェット病の症状では毛包炎様皮疹、結節性紅斑、針反応などの特徴的な皮膚症状が認められる。これらは活動期に悪化することが多い。皮膚粘膜症状に関して病態・治療の概説、個々の疾患治療に対するエビデンス評価を含めたクリニカルクエスチョンを作成した。皮膚粘膜病変に関するガイドライン作成した。

A. 研究目的

ベーチェット病は、口腔アフタや外陰部潰瘍などの粘膜症状や、結節性紅斑、毛包炎様皮疹など、特徴的な所見を伴う。ベーチェット病の皮膚粘膜症状に関する症状や治療への理解を得るために、皮膚粘膜症状に関する作成委員会を設けてガイドライン作成にむけて検討した。皮膚粘膜症状に関する概説を作成し、臨床・治療に関する質問、解説を作成し、さらに皮膚粘膜症状の診断・治療に関するアルゴリズムを加えて、ガイドラインを作成する。

B. 研究方法

ベーチェット病の皮膚粘膜症状の病態、診断、治療を検討する委員会を設けた。病態治療の概説を作成し、診断・治療についてエビデンス評価を含めてクリニカルクエスチョンを作成した。アルゴリズムの作成を試みた。

C. 研究結果

皮膚粘膜症状には、結節性紅斑、毛包炎様

皮疹、皮下の血栓性静脈炎、針反応があり、これらに関する概説を作成した。治療に関して、結節性紅斑、毛包炎様皮疹の治療はステロイド外用療法、コルヒチン、ステロイド内服などの全身療法であった。治療に関してアルゴリズムを作成し、エビデンスを含めて評価をおこなった。これらに関してクリニカルクエスチョンを作成した。診断・治療ガイドラインを作成した。

D. 考察

ベーチェット病の初発症状として皮膚粘膜症状を生じることが多い。今回ベーチェット病の皮膚粘膜症状に関するガイドラインを作成した。今後新たな治療薬の評価も加えたいと考えている。またこの診療ガイドラインがどのように有効に活用されるかに関しても、評価を行いたいと考えている。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1) 国内

著書・総説

中村晃一郎、岩田洋平、浅井純、川上民裕、常深祐一郎、金子史男。ベーチェット病の皮膚粘膜病変診療ガイドライン。日本皮膚科学会雑誌。128 (10)、2087-2101、2018.

H. 知的財産権の出願、登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

[ここに入力]